

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度 第12回大潟区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### ・報告事項（公開）

(1) J-ホールディングスグループの整理について

(2) 地域独自の予算の事業一覧について

### ・協議事項（公開）

(1) 地域活性化の方向性について

(2) 「いきいきおおがた」プロジェクトについて

### ・その他（公開）

## 3 開催日時

令和5年2月22日（木）午後6時30分から午後8時15分まで

## 4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 2階 中会議室（2）

## 5 傍聴人の数

1人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：五十嵐郁代、金澤信夫、君波豊、佐藤忠治（会長）、関清、中野幹根、濁川清夏、俵木一松、俵木晴之（副会長）、細井雅明（13名中10名出席）

・事務局：大潟区総合事務所 熊木所長、柳澤次長（総務・地域振興グループ長兼務）、平野市民生活・福祉グループ長、風間班長、水澤主任（以下グループ長はG長と表記）

## 8 発言の内容（要旨）

### 【柳澤次長】

・会議の開会を宣言

・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：濁川清夏委員に依頼

【佐藤忠治会長】

報告事項（1）Jーホールディングスグループの整理についての報告を行う。事務局から説明を願う。

【柳澤次長】

資料No.1、2により説明。

【佐藤忠治会長】

意見、質問はあるか。

【君波豊委員】

資本金が一番多い柿崎総合開発(株)に吸収合併するという事に納得がいかないが、決まったことであり仕方がないと思う。このことについて、市が中に入って調整していると思うが、4社が十分に話し合っているのか聞きたい。第5回地域協議会で示された資料では、「整理方針(案)イメージ図」の中に括弧付きで「市が100%株式を保有」という文言があった。資料No.1の2ページに事業会社吸収合併のイメージ図があるが、そこではその文言が抜けている。市が100%株式を保有ということは、市が筆頭株主になるわけだ。そういう面で、本社機能もしかるべきところに置かれると思うがどうなのか。各施設に支配人を置くとのことであるが、合併して人事も含めて合理化するわけであり、あまり頭でっかちな組織はいかがなものか。Jーホールディングスの時のような二の舞を踏むのではないかという懸念がある。そのことの論議はあったのか聞きたい。

【熊木所長】

資本金の大きな柿崎総合開発(株)に吸収合併することについては、市が4社とよく協議した中で決められたと承知している。株式については、市が100%を保有するという事で変わらない。合併後、柿崎総合開発(株)という名称は変更予定で協議中である。新たな会社の本店所在地は、4つの施設の間地点であることなどから吉川ゆった

りの郷に置くこととしている。各施設に支配人を置くなど組織をどうするかの詳細までは把握していない。

**【金澤信夫委員】**

4つの会社がひとつになってスタートするが、当然、赤字部門、黒字部門が出てくると思う。それを新会社に独自で撤退等の権限が与えられているのか。株式は100%を市が保有するとのことなので、市が判断するのか。

**【熊木所長】**

そもそも市の施設である。その施設をどうするかは市が決めることである。

**【佐藤忠治会長】**

これまで指定管理者制度であった。新会社は今後も指定管理者になるのか。

**【熊木所長】**

そのように認識している。令和7年3月31日まで現在の指定管理期間がある。

**【細井雅明委員】**

資料No.2の6ページを見ると従業員が増えるイメージである。先ほど君波委員が言ったように頭でっかちになり大丈夫なのか。赤字を黒字化するための方策を検討できる組織であればいいが、上だけ大きくなり下が付いてこないようではJ-ホールディングスの二の舞になるのではないかと不安である。細かいところまで見ていないが、目標値が異常に低すぎる。普通の会社ならこのようなレベルではOKにならない。残念だ。せっかく合併するのだから成功させていただきたい。

**【濁川清夏委員】**

合併しても指定管理者はそのままという話があった。今は随意契約でやっているが、将来的に外部から入れて公募ということは考えているのか。

**【熊木所長】**

そこまでは承知していない。

**【濁川清夏委員】**

公募になれば手を挙げるところも出てくるかもしれない。他の会社が指定管理者になれば、大潟地域活性化センターは必然的に解散するしかない。

**【君波豊委員】**

新会社のスタートにより各社は3月31日で解散となる。大潟地域活性化センターは

そこで無くなってしまう。

【濁川清夏委員】

そうなのか。

【君波豊委員】

新会社に吸収されるわけである。

【佐藤忠治会長】

個々の経営体があったJ-ホールディングスとは全く違う形となる。4つの会社が吸収合併して新しい社名となり、全株式を市が取得することとなる。

【熊木所長】

これまでJ-ホールディングスの株を持っていた方には清算してお返しし、すべて市が取得する。

【佐藤忠治会長】

4月1日に向けて、株の清算等は順調なのか。

【熊木所長】

株主への説明は終わっている。

【君波豊委員】

温浴施設についてサウンディング調査をしているが、その結果を分かる範囲でお聞きしたい。その内容如何によっては、4社の中から一つ二つ抜けてくる可能性もある。我々はなんとしても鵜の浜人魚館を守りたいといろいろやっているが、淘汰されてしまう心配がある。その辺をどのように話し合われたのか疑問に思っている。今、リフレ上越が大きな問題になっている。その中の2つの施設は令和3年に廃止の措置になっていて、譲渡若しくは貸与の対象となっている。本来ならもう動向が決まっていなければならないが依然として経営している。その中で経営状態を良く見せたくてあのような結果になったのだろうと思う。今回、4社が合併して市が100%株を保有する。市は筆頭株主になるので、リフレ上越のケースように「市は関わらない」「市は補償しない」ということは無いと思うが、サウンディング調査はどうなのか。

【熊木所長】

サウンディング調査の結果はホームページなどで公表していないが複数の提案があったということである。そのうちの一つが柿崎総合開発（株）である。

【君波豊委員】

資料No.2の経営改善計画概要について何も触れておらず「読んでくれ。」との説明であった。読ませてもらったが、言っていることはそのとおりだと思った。この通りやれば成功するかどうかは別にしてもうまくいくのだろうと思う。J-ホールディングスになる時もほぼ同じような内容の説明を受けたし、初代社長が取り組みたいこと等を地域協議会で説明してくれた。「これはうまくいく。」と思っていたが、その後うまくいなくなり8期連続で赤字となってしまった。是非、この計画通りやっていただきたい。この計画は、市の産業観光交流部施設経営管理室ではなく、合併する4つの会社が論議して作成したものと解釈していいのか。

【熊木所長】

詳細については承知していない。資料に会社名が入っているのでおそらくそこで作られたと思うが正確なところはわからない。

【君波豊委員】

「All Rights Reserved 柿崎総合開発株式会社」となっているので、柿崎総合開発(株)にこの資料の責任があるということだと思って聞いた。本来であれば業観光交流部施設経営管理室の名前が入ってもいいのではないかと思った。内容的には立派なものであると感心しているので、この計画通りにやってほしい。

【佐藤忠治会長】

新会社の人事等が決まってから、代表者に地域協議会に来ていただきたいと思う。

次に(2)地域独自の予算の事業一覧についての報告に入る。事務局から説明を願う。

【風間班長】

資料No.3により説明。

【佐藤忠治会長】

意見、質問はあるか。

【君波豊委員】

主だったものは地域活動支援事業の継続事業である。市長が「令和4年度で地域活動支援事業は終了する。」と言っておきながら、継続事業を認めていることが疑問である。あれだけはっきりと「令和4年度で打ち切る。域協議会での審査もやめる。」と言ったのに、令和5年度にこれだけのものが継続されることに不信感を持っている。

【佐藤忠治会長】

津有区や中郷区では地域協議会が提案団体で、実施主体が市という事業もある。地域協議会によって取組みがまちまちである。昨日、頸北の地域協議会長、副会長の会議があった。地域独自の予算の取組み、一般予算として総合事務所が市に提案する内容、町内会長協議会が要望を出している案件の実態などを意見交換した。頸城区は独特の取組みをしている。地域協議会がこれまで地域活動支援事業に提案した団体を全部集めて、それを4つの分野に分けて地域協議会委員と共に継続事業として実施できるかを協議した。地域協議会が事業の推進役となった。頸城区は「地域活性化の方向性について」をいち早く協議し、それに基づいて地域独自の予算に対処したそうだ。「住みよいまちづくり」をテーマに各団体から提案してもらったということである。吉川区、柿崎区は大潟区と同じで、総合事務所が地域活動支援事業提案団体向けに説明会を開催して提案を募った。地域協議会はそこには関わっていないし、地域協議会内でも提案等は無かったということである。今回、各区に任されていてどのように進めていいかわからないまま終わってしまった感がある。大潟区からは4件の提案を挙げて2件が通った。

【君波豊委員】

令和5年度の予算については、地域活動支援事業をいきなり切るわけにいかないため激変緩和ということで認めている。令和6年度からは市長の新しい方針に沿っていかなければならないのではないかと考えている。令和8年度には継続事業も3割負担となる。我々としては新しい方式に乗っていけるように、地域協議会が主体になるかわからないが、地域活性化の方向性に沿って提案を募集していく。3割負担になると資金力のある団体でないと提案しにくくなると思う。まちづくり大潟、おおがたスポーツクラブなど資金力のある団体は提案してくれるとは思いますが、考えていかなければならないことである。令和6年度からは、心を新たに募集していかなければいけない。

【佐藤忠治会長】

提案しやすい働きかけをしなければいけない。

【君波豊委員】

また、地域協議会も提案することができる。

【細井雅明委員】

市が実施主体になるというのは、区によってやり方が違うということか。提案した団

体が実施するという認識をしていた。

**【風間班長】**

いろいろな考え方がある。団体が提案して市が実施してもいい。地域協議会が提案して、市で実施すべきことであるという判断をしたうえで市が実施主体になったということである。

**【細井雅明委員】**

地域活動支援事業では、地域協議会が提案して市が実施主体となることはなかったか。

**【風間班長】**

なかった。

**【細井雅明委員】**

それであれば、激変緩和でこのような事例が出てくることは納得できない。各団体への説明会ではそのような話はなかった。提案団体が自己負担しなければならないと思い、提案しなかった団体があったかもしれない。令和5年度の地域独自の予算がこの表のとおり決定したとするならば、各区でばらつきがあり不公平感がある。取組みが早かった区と遅かった区で中身が違うのは理解できるが、今後も続いていくものなので提案を募る側が明確な方針を出して欲しいと思った。

**【佐藤忠治会長】**

三和区や名立区では提案団体も実施主体も市という提案もある。こういう提案も有りということは「(仮称) 地域独自の予算」の概要(案)の中に記載されていた。資料No.3により他の自治区の地域独自の予算の様子が見えてきた。この資料をもとに令和6年度の予算に向けて協議して行ければと思う。

次に、協議事項(1) 地域活性化の方向性について協議を行う。事務局から説明を願う。

**【風間班長】**

資料No.4により説明。

**【佐藤忠治会長】**

意見、質問はあるか。

**【佐藤忠治会長】**

地域協議会だよりで意見募集をした結果を聞きたい。

**【風間班長】**

1件意見があった。しかし、地域活性化の方向性の中に入れられる意見ではなかったため、案には入れていない。

**【君波豊委員】**

案は、全体的にいいのではないかと思う。「自然をいかし、いのちを活かす 心なごむ 潮騒のまち大潟を育む」というのは、大潟町時代から言われていることである。改めて大潟町時代の第3次総合計画、第4次総合計画を見返してみたが、ほぼ同じようなことを言っている。例えば、基本方針の中に「自然と生活が調和するまちづくり」、「教育文化の香り高いまちづくり」、「思いやり健康福祉充実のまちづくり」、「多様化、広域化に対応するまちづくり」などがある。案の中に大潟町時代から基本方針として書かれていた内容が言葉は違うが入っているのではないかと思う。ただ、産業振興の部分が入っていない。私が考えるには、「恵まれた土地活用により、地域産業の活力を生み出し、雇用の創出」といったものがあったらいいのではないか。

**【佐藤忠治会長】**

それを入れるとなると、どこに入れるか。

**【君波豊委員】**

別項目となるのではないか。工業専用地域もある。そこを活かして企業誘致を含めて産業を活性化することが必要である。

**【熊木所長】**

企業誘致などの産業関係を進めるのは、地域の皆さんではなく市が行うことである。地域活性化の方向性については、地域の皆さんが自分たちで「こうやっていこう。」という地域の課題解決の方向性であり、企業誘致などの産業についてはそぐわないと思う。

**【金澤信夫委員】**

構成要素の⑤で「元気で長生きを目指すため、サロンをはじめとした生きがいつくりや健康管理の充実」とあるがイメージが湧かない。サロンとは何か。

**【五十嵐郁代委員】**

いきいきサロンのことである。

**【佐藤忠治会長】**

大潟コミュニティプラザで行っているものと各町内会館で行っているものがある。

【細井雅明委員】

町内会館で行っているものはまちづくり大潟、大潟コミュニティプラザで行っているものはまちづくり大潟と社会福祉協議会が一緒に行っている。

【金澤信夫委員】

イメージが湧かない。

【細井雅明委員】

サロンだけではイメージが湧かないのではないか。

【五十嵐郁代委員】

やはり、いきいきサロンとかでないとなんか分かりづらい。

【佐藤忠治会長】

高齢者が定期的集まって活動している。

【金澤信夫委員】

「いきいき」を入れてもらいたい。

【佐藤忠治会長】

では、いきいきサロンとする。

【細井雅明委員】

大潟コミュニティプラザで行っているのはすこやかサロンである。

【五十嵐郁代委員】

名前が微妙に違う。

【細井雅明委員】

頸城区ではもう少し絞り込んでいる。例えば、③の「小山作之助をはじめ」とあるが、「小山作之助」でいいのではないか。②も「鵜の浜温泉、北國街道・潟町宿をはじめ」とあるが、鵜の浜温泉以外を付け足してもどうかと思う。「鵜の浜温泉」に絞ってはどうか。頸城区では「大池・小池」と絞っている。

【佐藤忠治会長】

大潟で活躍してきた人は小山作之助だけではないので「小山作之助をはじめ」とした。卯の花音楽祭などで小山作之助の偉業を後世に伝える取組みはあるが、その他の取組みはない。

**【俵木晴之副会長】**

サロンの部分を修正する以外はこれでいいのではないかと。

**【細井雅明委員】**

私は絞り込んだほうがいいと思う。

**【俵木晴之副会長】**

②の北國街道・潟町宿についても、まちづくり大潟でパンフレットを作って大々的に配布しているのではないかと。そういったこともあり「鵜の浜温泉、北國街道・潟町宿をはじめ」という文言にした。

**【細井雅明委員】**

皆さんがそう言うのならそれでいい。もう少し絞り込んだほうがピントが分かり易いと思った。

**【俵木晴之副会長】**

会長、皆さんの意見を聞いてまとめていただきたい。

**【佐藤忠治会長】**

これを基にまちづくり大潟や町内会長協議会とも意見交換をして作り上げ、共通の認識を持ちたい。「サロン」を「いきいきサロン」に訂正するだけでいいかと。

(一同了承)

次に(2)「いきいきおおがた」プロジェクトについて協議を行う。前回、今日の会議まで各自で考えてもらった上で、引き続き協議していくか結論を出すこととしていた。前回、皆さんから意見があったことを踏まえ、細井委員から資料の提出があった。説明を願う。

**【細井雅明委員】**

資料No.5により説明。

地域協議会、総合事務所との連携で取り組むことができないのであれば提案を取り下げたいと思う。

**【佐藤忠治会長】**

地域協議会、総合事務所との連携で取り組むことができないのであれば提案を取り下げるとのことである。この件については取り組まないこととしていいかと。

(一同了承)

4月になると令和6年度の地域独自の予算の協議に入っていく。そこで活かしていければいいと思う。先ほどの地域活性化の方向性を頭に入れながら、どんな事業が必要かを協議し各団体に呼びかけていく必要があると思う。

確認したいのだが、地域独自の予算は「仮称」が取れたのか。

**【熊木所長】**

20日（月）に新年度予算についての市長の記者会見があり、それ以降「仮称」は取れた。

**【君波豊委員】**

細井委員の提案の取り下げはもったいない。考え方そのものはいいと思う。主体を私がとか、そういった団体を作って企画立案して市や地域協議会にぶつけるといったことがあってもいい。まちづくり大潟にはいろいろな部会がある。かつて産業振興部会では無花果の普及に取り組んでいた。今でも苗木の頒布をしているが、以前はジャムなどの加工にも取り組もうとしていた。まちづくり大潟や「白の器」のような団体がやってくれるのがいいと思う

**【佐藤忠治会長】**

その他に入る。大潟かっぱ祭り実行委員会から地域協議会に実行委員選出の依頼が来ている。事務局から説明を願う。

**【風間班長】**

大潟かっぱ祭り実行委員会から地域協議会に実行委員選出の依頼が来ている。2年ごとに2名の選出をしている。前は佐藤会長と関委員であった。選考をお願いしたい。

**【佐藤忠治会長】**

これまでコロナ禍により実行委員会への招集はなかった。関委員、再度やっていただけるか。

**【関清委員】**

承知した。

**【佐藤忠治会長】**

もう一人、人魚館サポータクラブの準備委員でない委員をお願いしたいがいかがか。

**【細井雅明委員】**

6月4日（日）に1日だけの開催予定である。

【佐藤忠治会長】

6月4日の予定によって委員をやれる人とやれない人がいる。細井委員は事務局であるし、五十嵐郁代委員はまちづくり大潟で関わっている。後ほど個別に依頼して決めたい。

【俵木晴之委員】

私も町内会長協議会で実行委員となっている。

【佐藤忠治会長】

適任がいなければ私が委員となる。

【君波豊委員】

大潟かっぱ祭りの補助金はこれまで地域振興費として予算があったが、今後は地域独自の予算となることはあるのか。

【熊木所長】

それはない。これまでどおり地域振興費である。

【佐藤忠治会長】

他に事務局から連絡はあるか。

【水澤主任】

地域活動支援事業成果報告会の開催案内を配布したのでご確認いただきたい。

【細井雅明委員】

吉川区の地域活動支援事業成果報告会では地域独自の予算の説明もする予定であるが、大潟区ではやらないのか。

【水澤主任】

地域活動支援事業については成果報告会の中で翌年の説明をしていた。今年度、成果報告会の内容を協議いただいたときには、地域独自の予算の説明を入れない案で皆さんにお諮りした。他の区で地域独自の予算の説明を入れるところもあるようだ。

【熊木所長】

せっかくの機会であるので地域独自の予算の説明もしたいと思う。

【君波豊委員】

人魚館サポーターズクラブの準備の進捗はどうなっているか。春も近いし、市からも有り難い回答をいただいているので結成を急いでいくというのはいかがか。柿崎区の報

告会で、十日町市で農業をしながらサッカー選手を育てている事例の講演があった。支援をするファンクラブを作っていた。我々も早めに取り組んではどうか。

**【五十嵐郁代委員】**

先日、水澤社長と話をした。人魚館では新しい体制が整っていないため、具体的に話を進めるのは少し待つて欲しいとのことであった。2月16日に人魚館でスタッフ会議があり、その席上で水澤社長が改めてサポーターズクラブの説明と、どのようにしていけばいいかの協議がされた。今日、水澤社長から「スタッフのやる気や関心も高い。できればスタッフと準備会とで今後の進め方について話し合いをしたい。」と連絡があった。話し合いの日程を風間班長から調整してもらっている。「J-ホールディングスの新しい体制がはっきりとしていかないと、動き出すのはまだ難しい。」との話もあった。「ただ、地域協議会が自主的審議事項として提案しているので、サポーターズクラブについては進めてください」とも言っていた。今後も進捗については皆様に報告していきたい。

**【佐藤忠治会長】**

次回の協議会の日程案について事務局から説明願う。

**【柳澤次長】**

第13回地域協議会を3月23日木曜日午後6時30分から開催する。場所は大会議室である。

**【佐藤忠治会長】**

地域協議会だよりを3月25日号として発行予定である。

**【俵木晴之副会長】**

会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-534-2111（内線 201、216）

E-mail：ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。